

第3回下丸子駅周辺地区のまちの将来を考える会

日 時：令和4年2月14日（月）18：00～19：15

場 所：オンライン形式による開催

参加者：資料1 参加団体名簿を参照

■議事概要

(1) 開会あいさつ

- ・(一社) おおたクリエイティブタウンセンター（以下、「OCTC」とする。）の野原センター長より、前回のおさらいと今回の取組内容について説明を行った。

(2) レクチャー

1) レクチャー①「連立事業とまちづくりの事例紹介」

- ・(公社) 日本交通計画協会より20年後の下丸子駅周辺を検討する材料として、第2回で頂いた今後のまちづくりに対する意見の内容を実現している先進事例を紹介した。

2) レクチャー②「20年後の社会動向」

- ・OCTC 野原センター長より20年後の下丸子のまちづくりを検討する材料として、国土交通省が提示する20年後のまちの姿や駅とまちを一体で考えることの必要性、コロナ後のまちのあり方等について説明を行った。

(3) 意見交換「20年後の下丸子駅周辺について」

○工和会協同組合

- ・2つのレクチャーを踏まえ、下丸子が今後どのように変わっていくのか非常にワクワクしている。まちや道路に対する概念が変わってきていることを勉強させてもらった。今後まちづくりを進めていくうえで大事なこととして、新しい住民が今後も増えていくと思われるが、昔からの歴史・文化を残しながら新しい住民にも理解・認識してもらうことが、新旧住民が共存していくために必要なことと思う。

→ (OCTC 野原センター長) 以前からまちづくりにおいて新旧住民の対応は課題とされている。まちづくりを進める際にはお互いにWin-Winのあり方を考えていくことが大事である。

○下丸子三丁目町会

- ・ガス橋通りは都の景観条例でケヤキが切れないと聞いた。大変樹高も高くなっており、災害で倒壊した際などの影響が大きいと思われる。東京都にも議論に交える必要があるのではないか。

→ (OCTC 野原センター長) 大事にするものと、機能を考えるものとのバランスを考える必要があり、引き続き検討が必要である。景観に関する意見も今後踏まえてまちづくりを考える必要がある。

○下丸子商栄会

- ・下丸子にはキャノンや白洋舎の本社があるが、多摩川と環八に挟まれており、それほど大きなまちではない。大森町駅～梅屋敷駅間の梅森プラットフォームが参考事例として挙げたが、必ず

しも有効利用されていないように思う。鉄道高架化等により生み出される土地を如何に有効活用できるかを考えてみた。例えば下丸子1号踏切と2号踏切の間に駅のホームを設け、ガス橋通り側にも駅の出入口を設けるなどしては如何か。

→ (OCTC 野原センター長) 具体的な検討はこれからとしても、生まれたスペースをどう有効に使うかは丁寧に考えねばならない。梅屋敷の辺りは、区間が長い間まだ整備途中で使われていない空間もあるが、プレイヤーの関与など波及効果は一定程度生まれている。現状、下丸子近辺は空いている場所が少ないので、スポーツチーム等と連携して活用するなどの運用も含めて検討が必要であろう。

○下丸子三丁目町会

・副都心線が将来停まるのかどうかも影響が大きく気になっている。駅前に広場空間ができるのであれば、3町会と商店街の持ち回りで空間活用するなどの運用も考えられる。国領駅前のように空間は造ったがあまり使われていない様な寂しくなってしまうはいけなく考えている。

→ (OCTC 野原センター長) 将来的に駅前に広場空間をつくる際には、どのような使い方をしたいかきちんと考えてつくる必要がある。是非この勉強会の場も含めて積極的に意見を発信いただきたい。

→ (大田区) 20年後に新空港線が整備され、副都心線等との直通運転が実現しているかは明言できないが、そのような事象も見据えた計画を検討していきたいと考えている。次回以降の検討では区より20年後のまちづくりを考える上での前提条件を提示したいと思う。

→ (OCTC 野原センター長) 特定の事業がないと進まないまちづくりでは、その事業が破綻した途端にまちづくりが止まってしまうので、色々な側面からまちづくりを進めていく必要がある。

○東急電鉄(株)

・耕地整理や神社、武家屋敷等の歴史ある地域とあらためて前回まち歩きを通じて感じたところである。東急電鉄は目蒲線から始まり間もなく100周年を迎え、多摩川線は東急電鉄としても思い入れのある路線である。20年後を考えるにあたり、20年前に何をしていたか思い起こすと、目黒線の不動前付近や武蔵小山の立体化を進めており、当時は先進事例であった。その頃からするとまちづくりも大分進んできており、下丸子の20年後もそのように大きく変わる可能性があるものと思っている。

・また、駅とまちは一体的な空間として整備すべきものと捉えている。鉄道事業者だけでは上手くいくものではないので、地元の皆さまと連携しながら、鉄道事業者としてもできることを協力していきたい。

→ (OCTC 野原センター長) 下北沢も、昔からは想像のつかないまちに進化した。維持管理や運用の面も含めて上手な連携を図っていかれたらと思う。コロナ禍で人の動きも変わってきているが、ある側面だけをあてにしているわけにはいかない状況であることには変わりないと考えている。

○東急(株)

・「まちづくり」の意味は広く、また難しいと感じている。下丸子らしさをどう活かすかが課題である。野原センター長の講演にもあったように、町工場の存在等の地域の歴史を捉えるということはヒントになると感じている。梅森プラットフォームについては、仕組みも含めてわかるとよい。

○OCTC 野原センター長

- ・本日発言頂けなかった方は、思っている事やご意見などをメモにして事務局に提供していただきたい。次回以降の意見交換の参考としたい。
- ・歴史を活かすことも然り、新たに生まれる空間をどう使うか、皆さんにも汗をかいていただきながら一緒に考えていく必要がある。ただ場所をつくっても、使われない寂しい場所になってしまうので、どうすれば使えるか、使いたいも含めて議論を重ねながら検討を進めていきたいのでご協力願いたい。

以上